

観光社会資本の事例

テーマ	多島海に映えるしまなみ海道
【施設の状況写真】	
	
<p>来島海峡に架かる三連吊橋。絶好のビューポイントの1つ亀老山展望台からの来島海峡大橋の眺めです。</p>	<p>周辺景観に溶け込んだ多々羅大橋。明るい瀬戸内海にそびえ立つ高い塔がシンボルとなっています。</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>来島海峡大橋のライトアップ。地域のイベント開催に合わせて土日を中心に点灯している。平成17年度は、48日間点灯します。</p>	<p>しまなみ海道には原付で渡れる原付道、及び徒歩や自転車で渡れる自転車歩行車道が整備されています。潮風を肌で感じながら瀬戸内海の景観を楽しむことができます。</p>
【観光資源としての利用状況】	
<p>島々を結ぶ長大橋梁は、瀬戸内海の多島海に映え、橋自体が観光資源として地域に定着しています。しまなみ海道では、その特徴の1つである原付道及び自転車歩行車道を利用した各種イベントが実施されており、観光資源としての利用が図られています。</p>	

テーマ	多島海に映えるしまなみ海道
<p>【社会資本の基礎データ】</p> <p>名称 瀬戸内しまなみ海道(多々羅大橋・来島海峡大橋 等)</p> <p>所在地 広島県尾道市から愛媛県今治市まで</p> <p>事業名 本州四国連絡道路(尾道・今治ルート)</p> <p>事業主体 本州四国連絡橋公団(H17.10より本州四国連絡高速道路株式会社)</p> <p>事業期間 S48～(H11.5.1まで、大島南IC～大島北IC及び生口島南IC～生口島北ICを除き供用済み)</p>	
<p>【社会資本の役割・効果】</p> <p>基礎的交通条件の向上</p> <p>地域住民の日常生活の利便性向上が図られました。特に通勤通学、買い物、レジャーの随時性、また、救急医療や消防などの時間や移動手段の問題が解消されました。</p> <p>本四間交流の活性化</p> <p>尾道から今治までの所要時間が短縮され移動・輸送の安定性がもたらされました。地域間の移動時間の短縮により、交流圏が拡大され人の移動や物の輸送の活発化、広域化が促進されてきました。</p> <p>観光産業の振興</p> <p>橋は、沿線の史跡、レジャー施設などの観光資源とあいまって、新しい観光資源の役割を担っています。</p>	
<p>【位置図】</p> 	
<p>【関連ホームページ】</p> <p>本四公団 http://www.hsba.go.jp/ (H17.10から本四高速 http://www.jb-honshi.co.jp)</p> <p>しまなみ海道観光マップ http://www.go-shimanami.jp/</p>	